

東京リスマチック株式会社が 全店で PDF/X-1a による印刷入稿の受け付けを開始

PDF/X をサポートする Adobe Creative Suite により PDF/X データ作成もより簡単に

【2004 年 11 月 25 日】

アドビシステムズ株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：石井 幹）は本日、大手サービスビューロ東京リスマチック株式会社（本社：東京都荒川区、代表取締役社長：鈴木 隆一）が、同社が展開する 25 店舗全店で、ISO（国際標準化機構：International Organization for Standardization）策定の印刷を目的とした PDF のガイドラインである PDF/X-1a（以下：PDF/X）による印刷入稿への対応を開始すると、発表しました。東京リスマチック株式会社の店舗所在地および詳細情報は <http://www.lithmatic.co.jp/> をご覧ください。

現在、印刷出力時に発生する事故の多くは、印刷データの制作アプリケーションやそのバージョン、使用フォント、および OS の違いが原因で起こっています。これらの事故を防ぐためには、制作側と出力側で同一の環境を整備することが必要であり、そのための設備投資が両者にとって大きな負担となっています。さらに、印刷データの検証のためには、リンク画像や欧文フォントなどを添付した重いネイティブファイルを物理的にやり取りする必要がありました。

PDF/X を核としたワークフローは、制作側と出力側が全く同一の環境を用意する必要もなく、リンク画像などが添付された重いファイルを CD などでやりとりする必要もありません。ワークフローの簡素化と効率化を実現し、制作側は、使用する製品やバージョンに縛られずに自由に制作環境を構築することができます。また、出力側は検証のための負荷を軽減し、安全で確実に制作者の意図通りの出力を行うことができます。

東京リスマチック株式会社 代表取締役社長 鈴木 隆一氏は、「PDF/X は ISO によって標準化された電子送稿用のフォーマットで、最終出力データとして現在最も信頼のおけるフォーマットであるといえます。PDF/X によるオンライン入稿はパブリッシング分野に革新をもたらすでしょう。当社は、制作側、出力側双方の問題を一度に解決する PDF/X を、新時代における印刷入稿の標準フォーマットとして位置付けています。本格的な PDF/X 標準化の到来に先立ち、いち早く全店で PDF/X 入稿に対応したことで印刷業界のより大きな発展をサポートできるものと信じています」と述べています。

PDF/X は、印刷入稿の統一フォーマットによる、標準的な出力ワークフローという概念を初めてパブリッシング分野にもたらすものです。このワークフローでは、最新のアプリケーションを駆使し創造性豊かな作品を制作する環境と、制作者の意図を確実に反映する出力環境を同時に実現することができます。PDF/X は Adobe® InDesign® CS のレイアウトから直接書き出すことができ、Adobe Acrobat® 6.0 Professional を使ってプリライトのチェックを行ない、この PDF ファイルが最終出力ファイルとして信頼できるかどうかを詳細に検証することができます。アドビシステムズは、PDF/X 出力の受け皿としてのインフラの整備を強化し、PDF/X による新時代のパブリッシングワークフローを推進していきます。

最新のアドビ製品の出力対応店リストは以下 URL をご覧ください。

<http://www.adobe.co.jp/print/printsshop/main.html>

Adobe InDesign の PDF 書き出し設定ファイルは以下をご参照ください。

<http://www.adobe.co.jp/products/indesign/main.html>

アドビ システムズ社について

アドビ システムズ社は、人々と企業のコミュニケーションをより豊かにするために、業界をリードするデジタルイメージング、デザインならびにドキュメント技術のプラットフォームを、一般ユーザ、クリエイティブプロフェッショナルおよび法人ユーザ向けに提供しています。アドビ システムズ社の 2003 年度の売上は 12 億米ドル超でした。アドビ システムズ株式会社はその日本法人です。詳細な情報は、Web サイト <http://www.adobe.co.jp/> でご覧いただけます。